

2022（令和4）年度 京都大学 入試問題 文系 第2問 解答例

問一

ある事柄から同種の他の事柄が分岐して生じることを次から次へと繰り返し、事柄が増殖しつづけるという発想法。

＊「物語が物語を生じ、登場人物の語る物語中の人物がまた物語を語り、次々と物語が分岐し、増殖し続けるという発想法。」程度の具体性は、可。

＊傍線部直後の「背後」の内容（アラビア文化圏）を書くのは不可。論理的な誤りである。

問二

友人の的確精密な読書の要約を聞くたびに、筆者の読書法は、読む過程で思念の動きが気ままに拡大し、読書内容を整然と再現できない点で及ばず、正しくない気がしたから。

＊「後ろめたいと感じる」理由であるから、「後ろめたい」の単なる置換「気がひけるから」等は不可。一般に、「不正の自覚」がなければ、後ろめたくは感じない。

問三

読書において刺激された思念や想像の働くまま、早急に読み切ろうと執着しないことは、無心で他者の精神に接し、確実で体系的な知識の修得、客観的精神や認識と実践の統一へと至る、正しく健全な読書態度ではないと思われるから。

問四

読書の過程で気ままに膨張する思念の動きに半ば無自覚に耽溺したあとで、各自の精神の純化を経て読書内容の記憶が必ずほとんど失われることは、創造的読書の契機となり、精神の自立をもたらすと経験的に確信されるから。

問五

筆者は刺激された思念や想像が分岐膨張するに任せ、半ば無自覚に読書に耽溺し、内容は失念する。そうした無目標だが存在の根底からの渴望に発し、精神の自立と豊饒な創造性をもたらす、自らの個性に適し、人生に重要な読書態度。